

一進一退の足踏み状態

しがきん経済文化センター(産業・市場調査部)



笠原の桜/守山市

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、鉄鋼や窯業・土石製品などは上昇したが、電気機械やはん用・生産用・業務用機械、化学などが低下したため、原指数は2か月ぶり、季節調整済指数も3か月ぶりのともにマイナスとなった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値は2か月連続で前月に比べ低下し伸び悩んでいる。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は衣料品と身の回り品が引き続きマイナスとなっているが、飲食料品や家電機器などが堅調に推移しているため、全店ベースでは3か月ぶり、既存店ベースでは2か月連続のプラスとなり、大型店の中のドラッグストアの販売額も9か月連続のプラスとなり堅調に推移している。また、乗用車の新車登録台数も3か月ぶりに前年を上回った。一方、家電大型専門店やホームセンターの販売額は伸び悩んでおり、軽乗用車の販売台数も4か月連続の大幅マイナスとなっている。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は商業用とサービス業用がプラスとなったものの、鉱工業用が3か月連続の大幅マイナスとなったため、全体では5か月連続で前年を下回っている。さらに、新設住宅着工戸数は分譲住宅が3か月ぶりの大幅プラスとなったものの、持家と貸家がともに2か月連続の大幅マイナスとなったため、全体では前月に続き前年を大きく下回った。公共工事の請負件数は前月に続き前年を下回り、金額も3か月ぶりのマイナスとなった。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人数は8か月連続のプラスとなり、一方、新規求職者数は3か月ぶりのマイナスとなったため、新規求人倍率は前月に比べ大幅上昇したが、

有効求人倍率は前月レベルにとどまっている。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は全体的に伸び悩みの様相を呈しはじめ、需要面では一部で堅調な動きが続いているものの、消費面、投資面ともに一服感がみられる。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調の中で一進一退の足踏み状態にある。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、弱含みの国内需要に加え、中国経済や新興国の景気減速などの影響から、内・外需ともに弱含みで推移するものとみられる。また、需要面では、個人消費についてはエネルギー価格の低下によるマインドの改善は一部にとどまり、景気の先行き不透明感、家計収入の伸び悩み、株安に伴うマインドの悪化といった懸念材料が大きいため、全体に力強さに欠けた展開になると考えられる。また、民間設備投資や新設住宅着工などの投資関連でも金利低下といった好材料はあるものの、全体をけん引するだけの力強さはなく、全体に弱含みで推移するものと思われる。

したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調にはあるが好転材料に乏しいため、足踏み状態が長引くものと考えられる。

京滋の景気動向

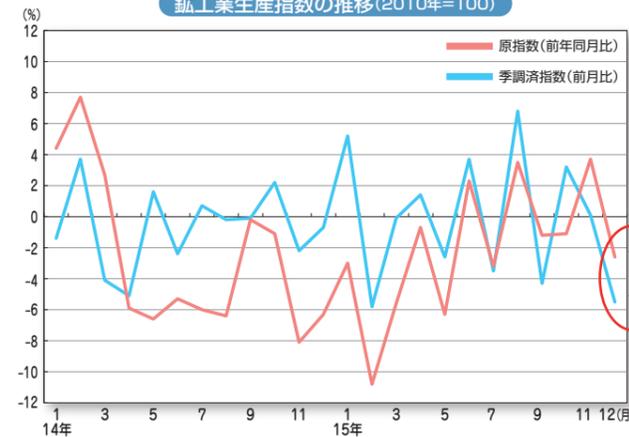
京都府・滋賀県の景気は、回復基調にある。個人消費は、緩やかに持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、減少している。生産、輸出は、増勢が鈍化している。労働需給、雇用者所得は、一段と改善している。

【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」(3月9日発表)より】

「鉱工業生産指数」は 両指数ともにマイナス

2015年12月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は92.5、前年同月比-2.6%で2か月ぶり、「季節調整済指数」も95.4、前月比-5.5%で3か月ぶりのともにマイナスとなった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値(11月)は99.1、前月比-0.8%と、前月に続きマイナスとなっている。業種別(中分類)に季調済指数の水準をみると、「パルプ・紙加工品」や「食料品」「その他」などは高水準となったものの、「鉄鋼」や「輸送機械」「窯業・土石製品」などの水準が低い。前月と比べると、「鉄鋼」や「窯業・土石製品」などはプラスとなったが、「電気機械」や「はん用・生産用・業務用機械」「化学」などはマイナス。

鉱工業生産指数の推移(2010年=100)



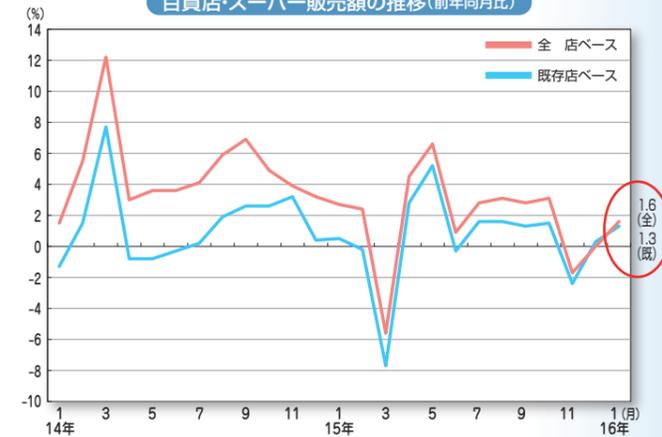
「百貨店・スーパー販売額」(全店ベース)は 3か月ぶりのプラス

16年1月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は24,627百万円、前年比+1.6%と、3か月ぶりのプラスとなった。品目別にみると、衣料品(同-3.5%)は3か月連続、身の回り品(同-3.8%)は4か月連続のマイナスとなっているが、ウエートの高い飲食料品(同+1.5%)は32か月連続で増加し、家電機器(同+16.7%)と家庭用品(同+15.6%)は二ケタの大幅プラスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は、全店ベースと比べると家庭用品(同-1.2%)がマイナスとなったものの、他の品目はほぼ同じ状況で、全体では前月に続きプラスになった(同+1.3%)。

また、「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、15年12月の「ドラッグストア」(162店舗)は5,210百万円、前年同月比+7.8%で9か月連続のプラスとなったものの、「家電大型専門店」(37店舗)は4,484百万円、同-7.0%で4か月連続のマイナス、「ホームセンター」(63店舗)は3,937百万円、同-3.1%で3か月ぶりのマイナスとなった。

16年1月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」は3か月連続かつ大幅のマイナスとなっているものの(1,080台、前年同月比-11.0%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」が2か月連続かつ大幅のプラスとなったため(1,498台、同+40.0%)、2車種合計では3か月ぶりに前年を上回った(2,578台、同+12.9%)。一方、「軽乗用車」は昨年4月からの増税の影響が長引き、4か月連続の大幅マイナスとなっている(1,886台、同-12.8%)。

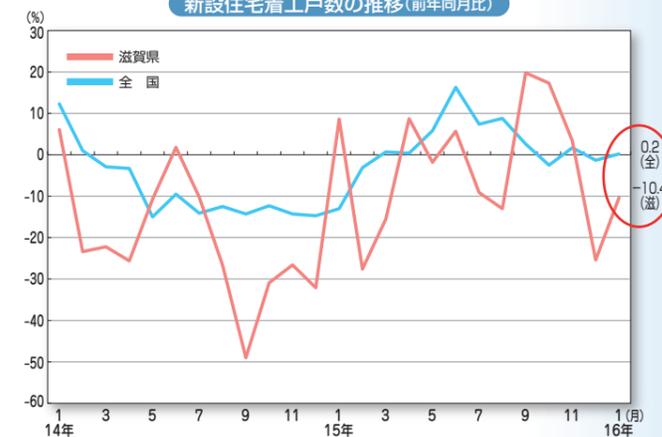
百貨店・スーパー販売額の推移(前年同月比)



「新設住宅着工戸数」は 前月に続き大幅のマイナス

1月の「新設住宅着工戸数」は733戸、前年同月比-10.4%で、前月に続き大幅のマイナスとなった。利用関係別で見ると、「持家」は309戸、同-16.9%(大津市74戸など)で前月に続き大幅のマイナス、「貸家」も263戸、同-19.8%(大津市89戸など)でこれも2か月連続の大幅マイナスとなった。一方、「分譲住宅」は161戸、同+98.8%(大津市95戸など)で3か月ぶりの大幅プラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は3か月ぶりに前年を上回り(119戸、前年差+38戸)、「分譲マンション」も6か月ぶりに申請となった(42戸、同+42戸)。なお「給与住宅」は前月に続きなかった。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比)



県内景気 天気図

現在の景気 生産活動



個人消費 民間設備投資



住宅投資 公共投資



雇用情勢 3か月後の景気



凡例



前月比

